

MEIKAI

明海大学

浦安キャンパス

同窓会会報

編集/会報発行担当
発行/浦安キャンパス同好会
URL <http://www.meikai.com>

会長あいさつ

明海大学浦安キャンパス同窓会会長

金子 裕介



取り巻く環境をみると、かつて東側と言われていた諸国が、自由主義社会の一員となり、ITの進展

によって時間的・空間的・文化的な距離感が薄れてくるなど、世界は西も東もないボーダレスな単一市場へと突き進んでいます。この結果、激化する企業間競争は言うに及ばず、大学もまた、優劣を競う環境に身を置くこととなりました。しかも、長引く景気低迷や少子化問題などの特殊事情がこれに加わり、わが母校明海も決して安心していられる状態ではないものになっています。

このような大競争時代になってきた今日、大学を見守り、大学の発展をサポートしていくのは卒業生である私たちの役割なのです。決して大変な事ではありません。みなさんが家庭人、社会人、企業人として自立し、主体的に自らが輝いて活躍している姿が大学を支えているのです。そして、その力を大きいものへと結び付けるのが、同窓会活動の本質であると考えます。

同窓会では、これからも元気に活動を進めて参ります。そして、より多く卒業生同士の交流がもてる場を提供できるように努力します。

パーティーではまず、同窓会の金子裕介会長が「今日は懐かしい顔を探してゆつくりと楽しんでください。今後、同窓会をますます充実させていきたいと思っています。来年のパーティーには、今日参加したみなさんが、必ずもう一人に声をかけて、さらに大きな同窓会にしていきたい」とあいさつ。

平成13年11月3日

同窓会パーティー

総勢300人が参加

懐かしい顔がいっぱい。2001年度浦安キャンパス同窓会パーティー

2001年度の浦安キャンパス同窓会パーティーが、平成13年11月3日に、明海クラブ・レストランニューマリズで行われた。関東を中心に、北海道、青森、福井、石川などの地域から約三百人の卒業生が集まった。

「懐かしい顔がいっぱい。2001年度浦安キャンパス同窓会パーティー」

就職試験で胸をはって「明海大学」ですと言えようになつた。これも卒業生の活躍のおかげ。これからはがんばってください」と話した。さらに教育後援会の中田俊一会長が「社会に出ると、大学と一緒に学んだ学友や恩師が懐かしく感じる。このようなパーティーはとても意味があるので、いつまでも続けてほしい。また、同窓会はもっと強くなる組織だと思っている。教育後援会といっしょに、明海大を支えていこう」と。歯学部同窓会の高瀬直副会長が、「少子化が進む中、同窓会の役割と存在意義の重要性が認識される時代となりました」と来賓のあいさつを述べた。

そして、鮫島伸一副会長が、「せっかくみんなが集まったのだから、ワイワイと楽しい時間を過ごしましょう。みなさんの近況を聞くと、明海大の卒業生も世界中で活躍しているようです。私たちの活躍が在学生の夢につながると思う」とスピーチし、お互いの健康を祈って全員で乾杯。パーティーはなごやかで楽しい雰囲気でした。



同窓会パーティ②

今年も、会場に各年度の卒業アルバム、展示コーナーが設けられ、アルバムを囲んで懐かしい話に盛り上がるグループもあった。また、プロジェクトを使って同窓会のホームページを紹介するなど、新たな試みが参加者の関心を引いていた。

パーティー終了後、金子会長は「年々参加者が増え、今年は昨年の一・五倍くらいの参加者があった。来年はもっと広い会場が必要。新しくできた学生ホールが使用できないか、検討している」と話していた。

「また来年も会いましょう」

参加者に聞きました

「学校がきれいになっていてびっくりしました」

(2001年卒・経済学部)

「初めて同窓会に参加しました。仕事帰りです。料理がおいしくていいですね」



(2000年卒業・経済学部)
「料理がおいしくて、最高です」

(1992年卒業・英米語学科)
「1歳6ヶ月の息子と一緒に参加です。友達に会いたかったので子連れで来ました」

(1996年卒業・英米語学科)
「毎年参加しています。とても楽しいので、これからも続けてください」

「もっとたくさんの人に来てほしい」

「パーティーの企画がよい」

(1991年卒業・経済学部ほか)
「知っている人あまり会えなくて残念でした。来年も来ます」

(1997年卒業・日本語学科)
「留学生の出席者が少なく、少しさみしかったです」

(2000年卒業・日本語学科留学生)
「久しぶりに友達に会えてうれしい。来年も来ます」

(1998年卒業・不動産学部)
「同級生と結婚して、今日は子連れで来ました。毎年来ていますが、卒業生は増えています」



「えいているはずなのにあまり参加者が増えないのはなぜ？」

(1996年卒業・経済学部)
「ゼミの先輩後輩です。初めて同窓会に参加して、とても楽しかった。」

また来年もやってください。できれば先生にも来てほしいですね」

(1999年卒業ほか・経済学部)
「現在、コンピューターを使う仕事をしています。コンピューターに初めてさわったのは、大学の授業の時。明海大で勉強したことが、役に立っています」

(1998年卒業・不動産学部)
「同窓会のパーティーに参加してよかったです。久しぶりに学校に来たら、新しい図書館ができていたし、周囲の環境もずいぶん変化していた。でも学内の雰囲気はそのままだと安心した。パーティー後に教室ものぞいてみたい。学生時代、教室はあまり好きではなかったけれど、今となるとなつかしい。在学中にもっと勉強しておけばよかったと、今になって思っています」

(1997年卒業・英米語学科)
「学園祭実行委員会に所属していたので、明海祭には仕事がない限りは来るようにしています。毎年盛況ですごいですね。明海大の前に短大を卒業していて、私たちの同窓会の副会長をしています。これだけの同窓生が集まるのは組織がきちんとしているからだと思えます」

(1998年卒業・英米語学科)

2001年度会議報告

- 第1回理事会 5月19日(土)
- 緑風会総会 6月2日(土)
- 代議委員会 7月7日(土)
- 第2回理事会 9月29日(土)
- 同窓会パーティー 11月3日(土)
- 第3回理事会 1月19日(土)
- 第4回理事会 2月16日(土)

事業計画

「事業活動」

- (1) 同窓会会報の発行
- (2) 同窓会パーティーの開催
- (3) 同窓会講演会の開催
- (4) 同窓会会員データベースの整備
- (5) 同窓会支部事業並びに設立のための支援
- (6) 同窓会ホームページの充実
- (7) 卒業生への記念品贈呈

「援助活動」

- (1) 就職事業の実施協力援助
- (2) 課外活動団体等への援助
- (3) 明海祭開催への援助
- (4) 学生会スキー教室への援助
- (5) 卒業パーティー開催への援助
- (6) その他



SAKABADeTALK

本間勝さん(不動産学科卒)・佐藤奈奈海さん(不動産学科卒)・石川一秀さん(中国語学科卒)・川島信一さん(中国語学科卒)・北瀬和馬さん(日本語学科卒)

人・物・仕事？ それぞれが明海大学で 得たものとは。

川島：僕が大学で得た一番のものは、北瀬君と知り合えたこと。北瀬君とは大学を卒業した後に別々の会社に務めました。パートナーとしてビジネスをする機会があり、お互いがプラスになり良かったと思う。明海生OBとして一人で社会にでて活躍することはもちろん良いことですが、卒業生同士がもっとビジネスとしてつながりをもてば、明海大学が大きく強くなれるのかな、と思っています。

石川：私が卒業した高校は進学率ゼロというところでもない高校でしたが、進学し大学に入りました。明海大学では国籍の違う人たちと、多く関わったことに今は感謝しています。

北瀬：やっぱり人間関係が一番。友人、先生、職員を含めた大学生活で出会ったすべての人。

佐藤：私も本当にそう思うけど、私自身は大学在学中多くの人と知り合いになれず、留学生との交流は全くありませんでした。同じ学部(不動産)に留学生が少なかったからだと思いますけど。

本間：自分の時代も留学生は少なかつたように思う。

佐藤：もう一つには、大学で開催してくれた会社説明会がきっかけで就職ができたこと。

たこと。この説明会は不動産学部の学生を対象にしたもので、教授や就職指導課と会社が連携し、かなり早い時期に実施してくれました。不況だと言われていましたが、そのおかげで余り苦労もせず就職できました。余談ですが、大学入試も真剣に選んだわけではなく、学校に進路を提出するときに、たまたま隣の人が書いていたのを写したら、一番上に明海大学があつてそのまま受験して入学していました。このとき経済学部も受験しましたがそちらは落ちましたけど。またまた余談ですが、何で明海大学を受験したかという、経済学部にして不動産学部にしても、女性の比率が1割しかないこと『これはどう考えても、ちやほやされる』と思つていましたが、4年間一切ちやほやされることなく卒業しました。これは大学で得られなかったことです。

本間：友人を得たのはもちろんのこと。一生の友達というのは大学の友達だと思います。その他のことを言うと、私は学部の一期生だったので、開拓精神を植え付けられました。高校は百

インターネットで呼びかけた新企画“酒場でトーク”。5人が名乗りを上げ、ここ銀座の一角にある居酒屋に集合した。その目的は、『みんなにとっての明海とは』を語ってもらうため。サークルや部活に所属していた人、所属しなかった人。勉強した人、勉強しなかった人など。思い出交じりの熱いトークが2時間30分繰り広げられた。

年を超える歴史ある学校でしたが、卒業後はできて間もない大学に入学。そのギャップは180度違うので、びっくりするものもありました。それは悪い面もありましたが、良い面もたくさんあり、その良い面の一番大きいのが、自分で切り開いていくこと。先輩たちもそうでした。何かしようとしても、物にしてもなんでも、何もない時代でした。自分で動いて作らないと、何も始まらない状態だった。昨年、大学に戻ってみると、いろんな物がそろつている。自分達の時代は教科書さえ一冊もなかった。恥ずかしい話ですけどね。アメリカはリアルエステートサイエンスが発達していて、教科書がいっぱいあります。先生方も教科書が間に合わないの、アメリカの教科書を日本語に訳しました。数少ない本とかを使つていました。ただ、不動産制度がアメリカの制度なので、全く日本の制度とは違い、意味のない勉強もあつたが、そうするしかなかった。

川島：今でも不動産学部って明海大学だけです。

本間：学部としては明海大学だ

けです。学科とか専攻単位でみると、私が卒業した日本大学の大学院や新しい大学でいくつかあります。ちよつとずつ広がっています。アジアでは韓国が一番不動産学の研究が進んでいて13校あり熱心にやっています。日本ではご存知のように不動産学はなじみがない。アメリカでは法学部や経済学部と並んでリアルエステートサイエンスがあり同じ地位にあります。ですのでアメリカの人にリアルエステートサイエンスを学んでいるといえ、すぐに納得してもらえます。日本は先進国といわれていますがちよつと遅れていると思います。

* * *

学部やサークルを通して、 学ぶべきことが多かった。

本間：VOICE・Mの制作を通じて、新聞やミニコミ紙などの方と知り合い、原稿を提供したりしていました。学内で学生が自主的に活動するということは本当に価値のあることでした。なぜ入部したかという、高校時代新聞部に所属していた本格的なタブロイド版を発行していました。思い出としては、浦安の市長選挙の候補者へのインタビューなど、浦安を中心に飛びまわっていました。朝日新聞社の千葉支局とも交流があり、世論調査の手伝いなどしたり、記者の方も大



本間 勝さん

5期生 不動産学科/大学院、と2年間の社会人を経て現在明海大学にてドクターコースを先攻中。



佐藤奈奈海さん

8期生 不動産学科/卒業後、賃貸物件を中心に扱う不動産関係の仕事に就く。同窓会理事。



北瀬和馬さん

10期生 日本語学科/在学中からWEBに関する個人事業に関わり、卒業後に有限会社を立ち上げる。現在はシステム会社にて営業となる。

学に遊びに来ていただき、色々なことを教えてくれました。外とのつながりが広がるのでとても勉強になりました。

石川：僕は夜間に専門学校に通っていたのでどこにも所属はしていませんでした。でも倫理の福田先生の話がおもしろくて足を運んではお茶を飲みながら色々な話を聞かせてもらいました。先生には大変お世話になったと思う。

北瀬：学友会副会長のとき学友会費として、かなりの金額を預かっていました。他の大学ではない大胆なシステムだと思う。佐藤：すごいよね。現金を預かっているんだもんね。

石川：金額はいくらぐらいだったの？北瀬：通帳に0がいくつもあった(笑)。お金のより良い使い方。あと無駄を省くコスト意識。このお金を使って学生にどれだけ有効に還元できるかを考えていました。今、実際の仕事で人件費などのコストを意識できるのは、その経験があったからだと思う。あとは2部生がもともと楽しく通える大学にしたかったが、今思えばあまり2部生には還元できなかったように思う。

佐藤：私も北瀬さん同様卒業パーティー



実行委員会を通して、少ないコストでどれだけ利益がだせるか、少ない予算でどれだけ楽しませることができるとかを、いつも考えていました。その時に交渉の楽しさを覚えました。どれだけ値切れるのか。どれだけなめられないでいけるのか。

か。どうしたって大学生それも女子大生なので、向こうから見れば女は女なんです。

川島：女か？佐藤：一応はね。戸籍上はね。大きくいうとね。

川島：わかった。わかった。

佐藤：初対面の人だと「若いお姉ちゃん」がきた「ていうぐらい。だからこちらとしては、どこまで最初からガツガツいけるかが楽しかった。私にあつていたんだと思う。勤めている不動産業界も古い体質のせいと同じようなもの。

川島：学友会会長としての僕の役割は、事務的なこととみんなの話を聞くことだった。社会にでて営業になってみてその経験がすごく役にたっている。そのおかげで営業先の今の会社に「うちの会社に来い」といわれ「いつからですか」って

これからの同窓会は？

佐藤：同窓会の現状は「未だ創生期」といった感じですが、理事会を開くなどして様々な事項を検討しています。また、名簿の整理を進め支部(学部ごと)の設立も目指しています。

認知活動としてはホームページを立ち上げ。緑風会(不動産学部同窓会)も来年にはホームページを立ち上げます。いづれにしても同窓会の活動をもっとオープンにしていきたい。



石川一秀さん

9期生 中国語学科/大学在学中に2年間神田外語学院の夜学に通い、在学中からキャリアアップを図る。現在外資系の企業に勤務。



川島信一さん

9期生 中国語学科卒/卒業後いったん物流業に入るが営業先で声をかけられ、その企業の営業となる。同窓会理事。

石川：そこま
でみんな深く
考えていない
のでは。
佐藤：そうか
なあ。私は自
分のお金が使
われていると

さらなる 交流を 深めよう!

北瀬：学友会活動もそうですが、同窓会も一般の会員にはわからないことが多いのではないのでしょうか。
石川：収支決算など、数字上でもわかりやすく知らせればいいのでは。あとは宣伝が必要。ホームページだけではまだダメだと思う。
本間：受け身ですよ。
石川：そうです。
佐藤：アクセスしてもらわないと、なんにもならないし。
石川：まだ手紙の方が良いかもしれませぬ。

佐藤：そろそろ卒業生の中にも企業の中で偉くなっている人がいると思う。
北瀬：決済権を持つている人とか。
佐藤：そう。人事権とか。名簿にそういった情報を入れておけばおもしろいのでは。営業で困ったときに「買ってください」なんてお願いしたりして(笑)。
川島：明海大学にはゼネラリストで言えば経済学部、スペシャリストで言えば不動産、外国語学部が存在し、お互いの交流をもっと深くすれば「明海」という存在だけで、世の中のあらゆることが解決

佐藤：どんな内容の手紙にすれば読んでもらえると思いますか。
石川：ズバリこれ、というものがあればいいと思うのですが、固い内容ばかりでは良くないと思います。封筒だと開けない人も多い、その点はがきだとすぐ見られる。また、コストも下がりますし。
川島：前回の理事会では、会報を年2回発行しようという案ができました。一回一回ごとの役割をはっきりさせて。手紙もどんな役割があるのか検討していけば、おもしろいものができるかもしれません。



できると思います。それにどう同窓会が関係していくのか、考えていければいいと思っています。同窓会がそのネットワークの大きな中心となるように。
佐藤：でも同窓生は、自分が納めたお金を同窓会が運営されているということをお忘れしているのではないのでしょうか。

ずつと思ってきた。貧乏性だから。



☆そうです。同窓会はこの会報をご覧いただいている、みなさんが納入したお金で運営されています。「積極的に」とは言いませんが、ぜひとも知恵をお貸しください。明海大学のさらなる発展のために。(編集委員)

さて、トークはこの後も続き、石川さんが仕事上で関わっている中国情勢の話や日本経済について、その他みなさんの今後の目標、はたまた「何で結婚しないの」といった個人的な話……。いずれにしても同窓生同士仲良く「また飲みましようね」と再開を約束した。



不動産鑑定士第二次試験に 本学から6人合格!

平成13年不動産鑑定士試験第二次試験合格者が発表され、現役学生1人を含む本学関係者6人が合格した。

不動産鑑定士試験は国家試験の中でも、司法試験、公認会計士試験と並ぶ文系の3大難関試験。

合格者は不動産学部4年在学中の竹内靖治さん、大学院不動産研究科前期課程2年在学中の中井将之さんほか、不動産学部卒業生の向原野信克さん(1996年卒)、巴山信幸さん(1998年卒)関哲郎さん(1999年卒)、河田将明さん(2000年卒)で、例年、第二次試験の合格者は在学生、卒業生をあわせ1)

11月24日、浦安キャンパスで、明海大学と朝日大学の主催による「日本語教育国際フォーラム2001」が開催された。後援は、千葉県・千葉県教育委員会・国際交流基金・財団法人日本教育協会・NHK千葉放送局・財団法人日航財団。世界各地の日本語スピーチコンテスト優秀者を集めた「国際大会」は、わが国で初めての試みであり、大きな反響を呼んだ。

わが国初の試み『日本語教育国際フォーラム2001開催』

フォーラムは、世界4地域(オーストラリア・韓国・中国・台湾)のコンテストで上位入賞した高校生11人、大学生2人による国際日本語スピーチコンテストを柱に、大学・高校の教員を招いての2つの学術的なシンポジウムを行なう3部構成で実施された。4地域の代表による今回のコンテストは、いわばグランプリを決定するもので、それにふさわしいハイレベルなスピーチが披露された。

未来に夢を…宇宙をテーマに 明海大学浦安キャンパス第6回卒業パーティー開催

3月23日(土)、学位記授与式の後、ヒルトン東京ベイ「クリスタル」で卒業パーティーが開催された。開宴に先立ち宮田侑理事長は「明るい海と書いて明海大学。海とは外国、国際社会を指します。国際社会をフィールドに、社会で活躍されることをお祈り申し上げます」と挨拶。金子裕介同窓会会長は「今日、言いたいことは一つ



だけです。大学生活最後の日を、思い残すことなく楽しんでほしい」と乾杯の挨拶。その後、大盛り上がりの中、料理を囲みながら学生最後の時を楽しんだ。学生時代を振り返って、「仲間のことを思いやる心の大切さを知った」とラクロス部の学生たち。日本語学科の学生は「オーストラリアへの留学、みんなとのディスカッションなど、学生時代に起こったことの全てが楽しかった。そしてなにより勉強の楽しさを感じることができた。これからも更に勉強を続けて、日本語教師として頑張っていきたい」と意気込みを話した。

クリーンキャンペーン効果で、 大学がきれいになってきている!

平成13年11月6日にスタートしたクリーンキャンペーン。学内や通学路であるシンボルロードを清掃するとともに、歩行禁煙やゴミのポイ捨ての禁止を呼びかけ、11月26日は120人が参加するなか、福岡工業大学の教職員4人が視察に訪れた。

視察した教職員の一人は「構内にゴミやタバコの吸い殻が落ちてなく大変驚いた。といった意見が多数あった。フォーラム終了後は、コンテストの出場者がホームステイするホストファミリーの方々も迎えた懇親会が開かれ、各地域ごとに歌や踊りを披露するなど、和やかな雰囲気の中、真の意味での国際交流が図られた。



参加した学生は「かなりゴミが少なくなってきました」。大学側も「このキャンペーンをきっかけに、学生の意識は少なからず高まったと思う。今後は周辺の自治会などと協力して定期的なクリーンキャンペーンができれば」との感想が聞かれた。

もう一度大学で学ぼう！ 150の講座 明海大学オープンカレッジ

1993年に開設された明海大学オープンカレッジ。学生のとき良く利用した人。“そんなのあったっけ？”という人まで、もう一度大学に戻って身体を鍛えたり、勉強してみませんか。

最新情報をスタッフの方に聞いてみました。「オープンカレッジは、本学学生の健康を増進する場と、より幅広い教養や技術・技能を修得するためのダブルスクールの存在。また、地域住民が利用する生涯学習、生涯教育の場として●教育・教養●実務・ビジネス●生活・趣味●健康・スポーツの4つのカテゴリーで、現在約150の講座を開いています。スポーツ講座はテニスと水泳が人気で、テニスは2000年にコートが増えて全11面になり、講座の内容もさらに充実してきました。この2つの講座は応募者が多いため、抽選が行われています。教養講座では本学講師陣が教える、簿記や宅地建物取引主任者といった資格取得講座。英会話、中国語、韓国語、フランス語などの語学講座など。趣味の講座では他ではあまりない、中国墨彩画の受講生が多いですね」

この他マルチスタジオではエアロビクス、ヒップホップ、ラテンエアロ、フラダンスといった、身体を動かして楽しむ講座が毎日開かれています。利用料金は、入会金は無料で一人月会費5150円。1回の入館料が400円。入館料がお得なフリーパスチケットもあり60歳以上の方なら月何回利用しても1000円。60歳以下の方は3000円。会員特典はまだまだあり、各講座受講料が半額、音楽スタジオ、カルチャールームなどのレンタル施設が割引引きになる。「大学が運営している施設ですので、料金もかなりリーズナブルです。また、他のスポーツクラブとは違い、会員数を無理に拡大する、といったこともしませんので、落ち着いてゆつたりと利用していただけます。ぜひ大学に戻って新しく何かを始めてください」



Email m-open@meikai.ac.jp
※月曜日休館（祝日の場合は翌日が休館となります）

何かひとつ 人類(ひと)のために

浦安キャンパス学位記授与式 1538人の巣立ちの日

3月23日(土)、明海大学浦安キャンパスで、2001年度学位記授与式が行われた。卒業者は、外国語学部448名(日本語学科103名、英米語学科273名)、中国語学科77名、経済学部636名、不動産学部343名、歯学部111名。※大学院生49名。別科日本語研修過程39名。高倉翔学長は告辞で「『二十一世紀こそは平和の世紀へ』という願いもむなしく、今日は苦難に満ちた危機的な状況に置かれている。しかしこの世紀の危機をチャ

ンスへと転換する担い手になってほしい。また、『ああこの世界を一度だけ通り過ぎる 何かひとつ 人類(ひと)のために 私たちができる何かを』という学歌をこころに刻みながら、



式を終盤には、「宮田賞」の授与式が行われ、不動産学部では二部の小西京子さん65歳が受賞。小西さんは二年生とき、学内で脳内出血、さらにも膜下出血を併発し倒れるというハプニングに襲われた。その後、後遺症が残り二十度の幅しか見えない半盲状態。文字が読めなくなり、書けない、一人歩きも困難になってしまったが、発病後三カ月で大学に復帰。ご主人の寿朗さんのサポートを得て、トップの成績を残し4年間で卒業した。

編集後記

これは私個人の後日談と言うべきでしょう。実はこの会報が出る頃には私は既に会社を退職しております。秋から夜間の専門学校に通うことにしたからです。自力の新規開拓にもそれなりの結果を出すことができ、仕事としてはこれからはありませぬ。しかし、僅か2年間ではありますが社会経験を胸に、もう一度勉強をしたいという思いが強く、退社を選びました。

卒業生の皆様はどのような経験をし、今があるのでしょうか？そしてこれからは何が必要なのでしょう？

もっと声を集めるきっかけを作り同窓会を盛り上げていきたいと思えます。

編集委員 川島信一